

# 第7回 木津川上流河川環境研究会 議事要旨

## 【開催概要】

開催日時：平成17年9月5日（月） 9：30～12：30

開催場所：メルパルク大阪 3F会議室「百合」

## 【出席者】

委員：委員8名

事務局：木津川上流河川事務所（4名）水資源機構（2名）、河川環境管理財団（3名）

オブザーバー等傍聴者：木津川上流河川事務所（5名）水資源機構（7名）

## 【議事次第】

1. 開 会
2. 前回議事録の確認
  - 1) 第6回環境研究会の議事要旨
  - 2) ホームページへの掲載原案
3. 議 事
  - 1) 堰魚道WGの検討経過について
  - 2) 河道内樹林管理WGの検討経過について
  - 3) 河川ダム水量・水質WGの検討経過について
  - 4) 本年度の検討スケジュール
4. その他
5. 閉 会

## 【議事項目ごとの審議結果】

1. 開 会
2. 前回議事録の確認
  - 2.1 第6回環境研究会の議事要旨  
事務局より第6回の議事内容を説明し、全委員の了承を得た。
  - 2.2 ホームページへの掲載原案  
事務局より内容を説明し、ホームページ公開について全委員の了承を得た。
3. 議 事
  - 3.1 堰魚道WGの検討経過について
    - (1) チーフ及び事務局からの説明  
チーフ及び事務局から、第4回堰魚道WGの検討経過について説明が行われた。主な内容は、以下のとおりである。
      - 1) 堰魚道改良に関わる進捗状況の報告について
      - 2) 平成16年度木津川上流管内魚道改修検討業務成果について
      - 3) 堰魚道関連調査の中間報告について
      - 4) 今後の検討スケジュールについて
    - (2) 討議内容
      - 1) 堰魚道改良に関わる進捗状況の報告について  
堰魚道の改良については、堰管理者の理解が得られるまで引き続き協議する。

2) 平成 16 年度木津川上流管内魚道改修検討業務成果について

3) 堰魚道関連調査の中間報告について

- a. 淀川河口部から大原発電所取水堰下流部までのアユ捕獲調査に関連して、遡上アユと天然アユの判別方法を検討する。
- b. ダム湖におけるアユの再生産については、稚仔魚の捕獲調査などを実施して、科学的な根拠を明らかにする必要がある。
- c. 出水後、アユを含む魚類の溯上数が増える傾向が見られた。遡上行動と天候や流況などとの関連について、継続的な調査が必要である。

4) 今後の検討スケジュールについて

3.2 河道内樹林管理 WG の検討経過について

(1) チーフ及び事務局からの説明

チーフ及び事務局から、第 3 回河道内樹林管理 WG の検討経過について説明が行われた。主な内容は、以下のとおりである。

1) 小田中道築堤部樹林植生調査（夏期）外について

小田中道築堤部樹林植生調査では、40 種類の新種を含めて 118 種類確認されたが、その中には貴重種は存在しなかった。

2) 河道内樹林管理イメージについて(素案)

3) 今後の検討方針について

(2) 討議内容

1) 小田中道築堤部樹林植生調査（夏期）外について

2) 河道内樹林管理イメージについて(素案)

用語の修正及び管理イメージの平面図と断面図の内容を整合させる。

3) 今後の検討方針について

- a. 河道内樹林の発達と土砂堆積に関する過去から現在までの変遷を整理し、原因を明確にした上で、維持管理の目標を設定し、管理計画を作成する必要がある。
- b. 他の地域の対応事例を収集し、整理する必要がある。
- c. 一般的なマニュアルにとらわれず、木津川上流の特性を考慮した内容に絞り込んで検討を行い、管理計画を策定すべきである。

3.3 河川ダム水量・水質 WG の検討経過について

(1) チーフからの説明

チーフから、第 1 回及び 2 回河川ダム水量・水質 WG の検討経過について説明が行われた。主な内容は、以下のとおりである。

1) 第 1 回河川ダム水量・水質 WG

- a. 河川ダム水量・水質 WG（仮称）設立にあたって
- b. 木津川上流の水環境
- c. ダム湖水質の現状と課題
- d. 水量水質 WG の検討課題とスケジュール

2) 第 2 回河川ダム水量・水質 WG

- a. 木津川上流における水環境の現状～前回 WG における課題の対応（河川編）～
- b. ダム湖の運用と水質の現状について
- c. 水質自動観測装置設置に関する検討（その 1）

## (2) 討議内容

### 1) 木津川上流における水環境の現状～前回 WG における課題の対応（河川編）～

- a. 直轄河川の水質汚濁の問題は、府県・自治体が管理する中小河川の流入による影響が大きい。そのため、府県・自治体の関係者にその実態を理解してもらい、一緒に考えていく組織づくりが重要であり、WG への参加も考えるべきである。
- b. 府県・自治体の関係者の WG への参加は、WG において基礎資料の整理と分析を行い、それに基づく淀川流域全体で総合的に負荷量削減方策等が概成した段階で対応すべきである。
- c. 「琵琶湖・淀川流域水質管理協議会（仮称）の設立の検討」の関連について
  - ・現状では、琵琶湖及び各河川流域別にそれぞれ管理手法などを整理検討しているが、将来的には琵琶湖・淀川流域全体の管理手法を取りまとめるべきである。
  - ・同協議会は行政・自治体・NPO などが参加し、水系全体の水質改善、汚濁物質の総負荷量管理に向けて取り組む機関であり、流域委員会で提案されたものである。
  - ・組織の立上げについては、現在のところ具体的には決まっていないが、「琵琶湖・淀川流域圏再生プロジェクトの事業」の中で対応することも考えられる。

### 2) ダム湖の運用と水質の現状について

- a. ダム湖については、今後、出水時の水質、放流施設の構造（選択取水、放流位置）及び下流放流水質との関係などを検討していく必要がある。
- b. 副ダムについては、本体ダム湖の水質保全効果の向上と副ダムの堆積物の除去等の適切な管理方法などを今後議論する必要がある。

### 3) 水質自動観測装置設置に関する検討（その 1）

## 3.4 本年度の検討スケジュール

### (1) 事務局からの説明

事務局から、平成 17 年度の本研究会の検討スケジュールについて説明が行われた。

### (2) 討議内容

本年度のフラッシュ放流・土砂供給実験の実施状況は以下のとおりで、次回の研究会でその内容を報告する。

- a. フラッシュ放流は、高山ダムで 4 月 27 日と 6 月 8 日、比奈知ダムで 5 月 10 日と 5 月 18 日に実施した。
- b. 土砂供給実験は、布目ダムで 8 月 10 日に 540m<sup>3</sup> の土砂供給を実施した。

### (3) 決定事項

検討スケジュールについて、承認された。

## 4. その他

次回の本研究会の開催は、12 月 1 , 2 日のいずれかで調整する。

## 5. 閉 会

以 上